

情報Cの授業の取り組みについて

富山県立新湊高等学校 片岡留美

1. 授業計画（内容・評価）のポイント

- ・使用教科書 実教出版 「最新情報C」
- ・補助教材 実教出版 「最新情報C学習ノート」
- ・対象学年 1年普通科

	学 習 項 目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント
1 学 期	オリエンテーション ・情報のデジタル化 ・効率的な情報通信 ・ネットワークのしくみとセキュリティ ・情報の管理と保護 ・情報化の光と影	・情報処理室の使い方・コンピュータの基本的な操作、授業で使用するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ・わたしたちの暮らしの中にある「情報」について学び、また「情報」をデジタル化する際の利点や問題点について学ぶ。 ・ネットワークが社会のさまざまな側面に与えた影響と、情報通信社会に参画していくために必要なことを学ぶ。 [評価のポイント] ・暮らしの中の情報や情報源を正確に表現することに関心を持つことができたか。 ・生活の中に入ってくる情報は、信頼性が高いかどうかを正確に判断することができたか。 ・デジタルとアナログの違いに関心を持ち、情報のデジタル化の問題点を正確に挙げ、その対処方法について考えることができたか。 ・ルールやマナーを守ってインターネットを利用する態度が身についたか。 ・画像処理ソフトウェアの操作を通じて、ファイル形式を変えることによる画像の変化に興味を有持てたか。
2 学 期	・メディアと表現 ・メディアと伝達 ・プレゼンテーションによる表現 ・情報の活用と課題解決 これまで学んできた知識や技術などを活用し、情報社会に関して身のまわりにある問題を解決する実習に取り組む。	・これまで学んできた学習内容を活用し、テーマに基づいて学習活動を進めその成果を発表するという活動を行う。 ・情報化の進展による利点と問題点を把握し、情報化社会の中での個人の責任について学ぶ。 [評価のポイント] ・データベースから情報を取り出す場合、さまざまな方法があることを考えることができたか。 ・知らない間に個人情報漏洩していることから、個人情報の取り扱いには注意する態度が身に付いたか。 ・身の回りにおける行為が違法である可能性があることに関心が持てたか。 ・情報化の進展により、情報災害といった新たな問題点が発生している現代社会に関心を持ったか。
3 学 期	・情報の受信・発信における心がまえ ・情報化とネットワークのひろがり	・情報技術が生かされた情報システムや、それらを結ぶネットワークについて学ぶ。また、Webページの作成を通じて情報社会に参画する態度を学ぶ。 [評価のポイント] ・現状の問題とその解決方法を考えながら、情報社会の将来展望ができたか。

2. これまでの生徒の状況

初めのオリエンテーションで生徒にキーボードマスターをさせたら、スキル差がはっきりと見えてくる。また、Word、Excel、Power Point の経験度についてのアンケートをとると、全ての生徒が習っており、かなりの生徒は Power Point でプレゼンテーションを経験している。パソコン操作のスキルは年々上昇しているが、格差も大きくなっている。

メールの得意な生徒は自己流でもキーを打つのがとても速く、Word でのレポート等速く仕上げるができる。だからといって Excel が上手であるとは限らない。インターネットをよく利用する生徒は情報検索が得意である。PC に触れる経験の少ない生徒は、何をするにも非常に時間を要し、中には分からないのにクリックしてしまう生徒がおり、PC をフリーズさせたり、違う操作をしたことに気づかず自分で解決できなくなったり、教師を頼らざるを得なくなる生徒が数人いる。PC がトラブルになった場合は、教師一人では対応するのに非常に時間を要し、一人の生徒のために全体を待たせてしまう場合もある。生徒個人の経験値が実習に反映されてしまう。

5、6年前に、課題の電子データをネットワーク上のRWに提出させたところ、生徒のフォルダー名を互いに、違う変な名前に変えたり、削除してしまったりというような悪戯や悪ふざけをする、情報モラルについての認識がかなり薄い生徒がいた。また、メールでいじめに関わる生徒もいた。

情報モラルについての指導を受けても、夏休み明けなどに携帯のブログ・プロフに関する指導を受ける生徒が出てきてしまうことが、とても残念なことである。

3. これまでの取り組み

4、5月のうちにサイバー犯罪に関するビデオを見せ、一度PCやケータイのネットワークに出てしまったものは世界中の誰でも見ることができコピーしたり保存したりできることを知らせ、情報モラルやセキュリティについて早期に指導を行ってきた。折に触れ継続して指導していかねばならない。

本校では生徒一人一人のメール設定を設けてはいないが、それ以外の経験をなるべく多くさせ、情報化社会への参画のために、実習を通した指導を重要視してきた。テーマによっては、グループワークを取り入れコミュニケーション能力を高める試みも図ってきた。ディベートを試みたこともあった。

各学期の終わりには、実習を通して指導したデジタル化とネットワークやコミュニケーションや画像・動画についての基本的事項を、学習ノートを利用して復習させ、期末考査で確認させた。

4. 今年の取り組み

生徒のスキルはアップしているとはいえ、経験に乏しい生徒もいるので、スキルの基本を押さえながら、情報モラルの育成をはかり、情報に振り回されることなく必要な情報を取り入れていくことが出来るように、またさらに他教科に生かされるよう連携をとってきたい。

動画に関しては、ビデオカメラがなかったのでインターネット上のフリーソフトを利用し、パラパラ漫画の制作を通して理解を図ってきたが、新規購入したデジタルカメラの動画記録機能を利用してグループによるCM制作を試みたいと考えている。